

事業事前評価表

1. 基本情報

国名 : バングラデシュ人民共和国
案件名 : イーストウエスト医科大学病院事業 (East-West Medical College Hospital Project)
調印日 : 2018年7月3日
出資先 : Ship Aichi Medical Service Limited

2. 事業の背景と必要性

バングラデシュの保健医療分野については、医療インフラの未整備や医療人材の不足が大きな課題とされ、同国の10,000人当たりの病床数は6床 (World Health Statistics 2014) と極めて低水準にあり (世界平均は27床、バングラデシュと同じ低中所得国平均は10床)、医療従事者についても、1,000人当たりの医師数、看護師数、助産師数、歯科医師数、薬剤師数は計0.66人 (WHOは右の数値が2.28を下回る国を医療人材不足が深刻な国と定めている) (The World Health Report 2016) と大幅に不足している。

また、同国では、食生活や生活様式の変化等により疾病構造の転換が進み、非感染性疾患 (Non-Communicable Diseases: NCDs) が大きな課題となっている。全疾患の61% (Health Bulletin 2016)、死亡要因の59% (NCDs Country Profile 2014) が心血管疾患やがんをはじめとするNCDsが占め、国立循環器病院センターへの入院患者は2002年から2014年の間に3倍へ増加している (Health Bulletin 2014)。しかし、NCDsの確定診断や治療を含む高次医療を担う病院は少なく、糖尿病を確定診断できる公立病院は郡病院で約3割、県病院で約5割に止まる (Health Facility Survey 2014)。また、CTスキャンによる診断機能を持つ保健施設は、全国の保健施設のうち0.3%である (Health Facility Survey 2014)。かかる状況から、特にNCDsに対応する医療インフラの整備、医療人材の育成がバングラデシュの課題となっている。

バングラデシュ政府は、セクターワイドアプローチによるドナー協調のもと、「第4次保健・人口・栄養セクタープログラム (the 4th Health, Population and Nutrition Sector Programme: HPNSP) 2017-2022」において、公正で質の高いヘルスケアを全ての国民に確保することを目標に、医療施設の開発 (Physical Facilities Development) を掲げており、病院の設立や既存の医療施設の改修・品質向上、人的資本の強化に取り組むとしている。また、同戦略計画においては、公的セクターだけでなく、民間セクターを活用した医療サービスの向上・拡充によるユニバーサル・ヘルス・カバレッジの実現を掲げている。

我が国の「対バングラデシュ人民共和国国別開発協力方針」(2018年2月)では、同国の「中所得国化に向けた、全国民が受益可能な経済成長の加速化」を支援するために、「社会脆弱性の克服」を重点分野として定め、「人間開発」が開発課題として掲げられている。この中で医療施設における保健人材の圧倒的な不足や、病院の運営、施設・機材の整備が課題として指摘されており、対

応方針として保健医療サービスの質及び量の拡大に向けた支援が掲げられている。また、当機構の対バングラデシュ人民共和国 JICA 国別分析ペーパー（2014年5月）においても、保健人材の絶対的な数の不足や質（知識や技術レベル）の標準化が課題として指摘されており、保健医療は重点分野として位置付けられている。

これまで円借款「母子保健および保健システム改善事業」(2015年12月調印)を通じて NCDs の早期診断のための医療設備及び機材の整備、看護大学における教育環境の改善を行っている他、「看護サービス人材育成プロジェクト（技術協力プロジェクト）」(2015年7月～2020年6月)では、学士課程の看護師の育成支援を、「コミュニティ主体の健康づくりプロジェクト（技術協力プロジェクト）」(2017年7月～)では、コミュニティレベルに焦点をあてた NCDs 及び都市保健対策の能力強化を行っている。他方で、治療も含めた総合的かつ高次の医療サービスを対象とした支援は行っておらず、本事業はこれまでの保健医療分野における取組を補完するものである。加えて、日本政府の「未来投資戦略」(2017年6月閣議決定)では、新興国を中心に日本の医療拠点を2020年までに20カ所程度創設することが掲げられており、「健康・医療戦略」(2014年7月閣議決定)では医療サービスの輸出拡大のため、当機構の海外投融資を積極的に活用することとされている。

3. 事業概要

(1) 事業目的

本事業は、バングラデシュ人民共和国の首都ダッカにおいて民間総合病院を設立・運営することにより、日本の病院経営ノウハウを活用した医療サービスの提供を図り、もって同国の医療水準の向上に寄与するもの。

(2) プロジェクトサイト／対象地域名

バングラデシュ人民共和国ダッカ市

(3) 事業内容

イーストウエスト医科大学病院（East West Medical College & Hospital : EWMCH）の既存病棟の増築（1階）及び補強工事（1～4階）、敷地内でのアネックス棟（10階）及びサービス棟の新設及び既存病棟を含む全病院施設の運営。増築後の病床数は584床（現在は280床）。

(4) 事業実施期間

2019年10月 部分開院

2020年4月 全診療科目の開院

(5) 事業実施体制

1) 出資先：Ship Aichi Medical Service Limited (SAMSL)

2) 事業実施機関：同上。

3) 運営・維持管理機関：同上。

(6) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリ分類：C

② カテゴリ分類の根拠：本事業は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」(2010年4月公布)上、環境への望ましくない影響は最小限であ

- ると判断されるため。
- 2) 横断的事項：特になし。
 - 3) ジェンダー分類： ジェンダー活動統合案件

＜活動内容/分類理由＞

本事業は、民間総合病院の増築・運営事業等へ出資することで、バングラデシュの医療水準の向上に寄与することが目的とされており、事業の診療科目には産婦人科が含まれているため。

4. 過去の類似案件の教訓と本事業への適用

対ベトナム円借款案件「地方病院医療開発事業」（2006年3月承諾）の事後評価では供与機材の有効活用や医療サービス向上のためには人材育成等技術支援により能力強化を図ることが有用である旨指摘されている。本事業では、現地や本邦病院の支援により、医療人材の育成を行う予定。

対フィリピン無償資金協力案件「オーロラ記念病院改善計画」（2010年3月承諾）の事後評価では、機材を調達する場合には、安定的に機材の修理・スペアパーツ購入ができるよう、関係者が簡単にサプライヤーや代理店にコンタクト可能な仕組みを導入することが、機材の継続的な有効活用に重要と指摘されている。本事業では、グリーンホスピタルサプライ株式会社を中心となり、現地代理店がメンテナンスを行う体制を構築する計画となっており、また一部医療機器については、同社のグループ会社から調達する計画のため、サプライヤーにもコンタクト可能な仕組みが整えられる予定。

5. 評価結果

本事業は、バングラデシュの課題・開発政策、我が国及びJICAの援助方針に合致しており、加えてSDGsゴール3（健康と福祉）に貢献すると考えられるものであることから、JICAが本事業の実施を支援する必要性は高い。

以上